

2020年9月28日

三井化学株式会社

ありがとう 炭鉱電車プロジェクト

瀬木監督によるメモリアル映像 2 本を公開

100 年以上続いた炭鉱電車の“風景の資産”を未来に残すプロジェクト

三井化学株式会社（東京都港区、代表取締役社長：橋本修）は、大牟田工場（福岡県大牟田市）において原材料の搬入等に使用してきた三井化学専用線（旧三池炭鉱専用鉄道）を2020年5月7日をもって廃止致しましたが、三池炭鉱の時代から現在に至るまで100年以上の長きにわたり活躍を続けてくれた炭鉱電車への感謝と、未来に向けたレガシーとしての活用を検討する「[ありがとう 炭鉱電車プロジェクト](#)」を進めております。

今般、九州・大牟田／荒尾地域と共にあった炭鉱電車の動く最後の姿を記録として残すため、映画監督の瀬木直貴氏による短編映像2本の制作を進めてまいりましたが、本日 YouTube の[三井化学公式チャンネル](#)にて公開いたしました。

また、制作した映像を地域の資産として自由に活用して頂くべく、大牟田市等関係者へ9月27日（日）に贈呈いたしました。

① 紅い恋人編（11m02s） <https://youtu.be/7DdupuFWWNU>



炭鉱電車と共に過ごした方々へのインタビューや過去の貴重な映像資料などを通して、改めて炭鉱電車の魅力を掘り起こします。また、みなさんから頂いたエピソードをもとに詩人の道山れいん氏に詩を書き起こしていただき、映像中に流れる音楽はアーティスト Seiho 氏による炭鉱電車の音源を用いたコラボレーション楽曲になっています。

② 炭鉱電車の日編（13m20s） <https://youtu.be/H6sZ6VK6xZo>



炭鉱電車の運行、整備に長く携わってきた方々の一日の仕事を追いかけたドキュメンタリーです。運転や整備の様子、機関庫や工場内を走る様子など、貴重な映像とともに楽しみください。



瀬木直貴監督のコメント

撮影からひと月後の 2020 年 5 月に炭鉱電車は運転を停止し、7 月には豪雨により甚大な被害に見舞われました。にもかかわらず、僕は淡々と映像の仕上げ作業を進めました。目の前のモニターには生きた炭鉱電車が映っているから。そう、道山れいん氏の詩の一節にあるように、僕の中ではずっと炭鉱電車が走っていました。朝にはじまり夜に終わる二本の映像作品『紅い恋人』『炭鉱電車の日』は、消えゆく炭鉱電車の葬送曲ではなく、夜が明ければまた新しい朝を迎えるという大牟田の日常の風景です。願わくは、炭鉱電車にも新しい朝が来ることを期待しています。

プロフィール

映画監督のほかテレビ番組や CM のディレクターとしても活躍。エッセイ、環境・教育・人権に関する講演活動、各地のまちづくりアドバイザーも務め、地域コミュニティをモチーフにした作品に定評がある。近年の主な作品として、大牟田を舞台にした『いのちスケッチ』（2019）、『恋のしずく』（2018）、『マザーレイク』（2016）など。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部（担当：松永、TEL：03-6253-2100）

三井化学株式会社 大牟田工場 総務部（担当：浦田、TEL：0944-51-8111）